



令和7年8月26日

報道機関 各位

## <タイトル>

鎌倉時代から続く「吉保八幡のやぶさめ」を催行

## <本文>

吉尾地区の吉保八幡神社で、9月28日（日）に「吉保八幡のやぶさめ」が催行されます。

「吉保八幡のやぶさめ」は、毎年9月の最終日曜日行われる吉保八幡神社の例大祭に併せて催される、千葉県指定無形民俗文化財に指定される伝統行事です。起源は鎌倉時代までさかのぼるとも言われ、武芸的なやぶさめとは異なり、五穀豊穰を祈願する農耕神事として催されるのが特徴です。

千葉県で行われている本格的なやぶさめとしては、唯一の例となります。

神社前の216メートルの馬場に沿って3本の的を立てられ、禰宜が疾駆する馬上から、的に向かって矢を射ます。これを3回繰り返す、その当たり具合で来年の米の作柄の豊凶を占います。的は馬場からの距離が10m以上も離れているうえに5mほどの高さに立てられるため、命中率が低くなっています。これは、矢が外れることも占いの重要な要素として考えられるためです。

古くは地頭の畠山・鈴木両氏の家系によって伝えられてきましたが、現在では、仲・大川面・宮山・八丁地区の氏子らによる「長狭やぶさめ保存会」により、保存・継承がされています。

- 1 日時 令和7年9月28日（日） 午後3時頃
- 2 場所 吉保八幡神社（鴨川市仲 253-1）
- 3 駐車場 長狭学園、国保病院他を予定
- 4 禰宜について 氏名 加藤 道明（かとう みちあき）さん  
住所 鴨川市仲

※平成28年から禰宜を務めた吉野秀二さんに代わり、今年初めて  
禰宜を務めます

## 《参考》

- ・千葉県指定無形民俗文化財には、昭和40年4月27日に指定。
- ・立てられる3本の的は、10mほど離れた場所に設置され、それぞれ早稲・中稲・晩稲を意味し、命中した的により、翌年の豊凶を占います。
- ・矢を射る禰宜は、祭礼の1週間ほど前から精進潔斎<sup>しょうじんけっさい</sup>によって、身を清め当日を迎えます。
- ・令和6年9月29日に実施されたやぶさめでは、9本中5本の矢が的に命中し、令和7年の中稲と晩稲が豊作との託宣となりました。

## 問い合わせ

生涯学習課 文化振興係 担当：永井

TEL：04-7093-3800 FAX：04-7093-1101